

看護学部／看護学科	職名	准教授	氏名	櫛 直美
-----------	----	-----	----	------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

北九州市立大学社会システム研究科地域社会システム専攻博士後期課程修了、博士（学術）。研究分野は「地域・在宅で生活する療養高齢者とその家族の支援」をテーマとし、特に近年は認知症を抱える家族介護者の“持てる介護力”に着目して、その潜在的介護力を引き出し向上させていくための多職種協働による効果的な介入方法について研究中です。介護保険制度が施行され家族の身体的介護負担は軽減された側面もありますが、孤立した家族介護者の寂しさや閉塞感は以前と変わっていないように感じます。本当に必要な看護支援を見出すためには、自ら介護家族者と触れ合いその苦悩を感じ取る感性が必要だと考えます。そのために介護する側とされる側の方々に寄り添った医療・福祉連携の多職種研修会や介護関係の研修会講師など地域での実践活動を積極的に行い、その活動を通して、介護保険制度にはないインフォーマルな関係性を構築していきたいと思えます。そして目指すはエビデンスに基づいた家族介護者のエンパワメント向上への看護支援です。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

#### <論文>

- 平塚淳子、猪狩崇、中村美穂子、小野順子、吉川未桜、吉田麻美、田中美樹、山下清香、櫛直美、尾形由起子. A 県における訪問看護ステーションの BCP 策定における現状と課題. 福岡県立大学看護学研究紀要, 20 巻, 2023 年, 3 月.
- 櫛直美, 尾形由起子, 小野順子, 中村美穂子, 大場美緒, 吉田麻美, 猪狩崇, 平塚淳子, 田中美樹, 吉川未桜, 山下清香. 在宅医療推進における訪問看護ステーション連携への取組に関する一考察. 福岡県立大学看護学研究紀要, 19 巻, 2022 年, 3 月.
- 櫛直美. 家族介護者の介護肯定感形成のための対処行動の検討, 日本ホスピス・在宅ケア研究会雑誌, 第 29 巻 3 号, 2021, 12 月.
- 御手洗みどり, 櫛直美, 楠凡之. 看護学の実習におけるシミュレーション教育の学習効果—臨地実習経験のある学生の学びのレポートからの分析—, 北九州市立大学文学部紀要, 第 29 巻, 2022, P19-30.
- 小野順子, 山下清香, 中村美穂子, 中本亮, 櫛直美, 田中美樹, 吉川美桜, 吉田麻美, 尾形由起子. A 県における訪問看護ステーションの災害対策の現状と課題—災害時の在宅療養継続に向けて—. 福岡県立大学看護学研究紀要, 19 巻, 2022 年, 3 月.
- 田中美樹, 吉川未桜, 尾形由起子, 櫛直美, 吉田麻美. 小児訪問看護における訪問看護師の困難感と同行訪問研修の試み. 福岡県立大学看護学研究紀要, 19 巻, 2022 年, 3 月.
- 吉川未桜, 吉田麻美, 平塚淳子, 中村美穂子, 大場美緒, 小野順子, 猪狩崇, 山下清香, 田中美樹, 櫛直美, 尾形由起子. 新型コロナウイルス感染拡大下における訪問看護ステーションの困難と対応. 福岡県立大学看護学研究紀要, 19 巻, 2022 年, 3 月.

- ・ 尾形由起子, 小野順子, 山下清香, 櫛直美, 眞崎直子. 多職種による終末期までの療養生活に対する意思決定支援内容の検討. 福岡県立大学看護学研究紀要, 第 18 巻. 2021, 3 月.

## ②その他最近の業績

### <学会発表>

- ・ Y.OGATA, J.ONO, K.YAMASHITA, Y.SUGIMOTO,R. HIROKI,N.ICHIKI. A study on clarify the relation with perceptions regarding home care decision-making until the end-of-life of community residents.end-of-life care, decision-making, community, support, attachment, 26th East Asian Forum of Nursing Scholars: EAFONS 2023,March 10–11,2023.Tokyo
- ・ Naomi Ichiki, Yukiko Ogata, Junko Ono, Kiyoka Yamashita, A study on the actual situation and issues of end-of-life care for home-visit nurses, 26th East Asian Forum of Nursing Scholars: EAFONS 2023,March 10–11,2023.Tokyo
- ・ Junko Ono , Yukiko Ogata , Naomi Ichiki , Kiyoka Yamashita, Disaster Countermeasures at Home-Visiting Nursing Service Stations for Maintaining Home Care . 26th East Asian Forum of Nursing Scholars: EAFONS 2023,March 10–11,2023.Tokyo
- ・ 御手洗みどり, 雪松和子, 廣瀬理絵, 櫛直美. 老年看護学におけるシミュレーション実習の学習効果について～臨地実習経験のある学生の学びのレポートからの分析～. 第 47 回日本看護研究会,web 開催. 2021 年.
- ・ 櫛直美, 雪松和子, 江上史子, 廣瀬理恵. 認知症カフェ開設に向けた人材育成の取り組みの効果について. 第 40 回日本看護科学学会. Web 開催. 2020 年. 12 月.

### <報告書>

- ・ 「令和 3 年度福岡県訪問看護ステーション連携強化事業」報告書, 2022 年 3 月.
- ・ 「令和 2 年度福岡県訪問看護ステーション連携強化事業」報告書, 2021 年 3 月.
- ・ 「令和元年度福岡県訪問看護ステーション連携強化事業」報告書, 2020 年 3 月.
- ・ 「平成 31 年度附属研究所重点領域研究報告書」地域包括ケアシステム構築に向けた保健医療福祉データの GIS 分析による地域診断モデルの開発, 2020 年 3 月.

## ③過去の主要業績

『博士論文』家族介護者の介護適応を促す協同的ケアモデルに関する研究 - 家族介護者の介護力向上のために必要な看護支援の検討. 全 115 頁. 2015 年 3 月.

## 3. 外部研究資金

- ・ 文部科学省科学研究費補助金、基盤 C（平成 30～33 年）「認知症カフェにおける家族介護者の介護力獲得支援モデルの開発」研究代表者
- ・ 福岡県訪問看護連携強化事業受託金（2020～2022 年）研究分担者(代表；尾形由起子)
- ・ 文部科学省科学研究費補助金、基盤 C（平成 29～33 年）「簡易型認知行動療法プログラムの生活習慣改善への効果検証」研究分担者（代表；田中美加）

#### 4. 受賞

#### 5. 所属学会

日本看護協会、日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本在宅ケア学会、日本老年看護学会、日本公衆衛生学会、日本地域看護学会、日本看護医療学会、日本在宅ホスピスケア研究会

#### 6. 担当授業科目

老年看護学・2単位・2年・後期,老年看護学演習Ⅰ・2単位・3年・前期,老年看護学演習Ⅱ, 1単位・3～4年・通年, 老年看護実習Ⅰ・1単位・2年・通年,老年看護実習Ⅱ・2単位・3～4年・通年, 専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年, 統合実習・2単位・4年・前期,卒業研究・2単位・4年・後期,老年看護学特論・2単位・修士1年,老年看護学演習・2単位・修士1年, 高齢者医療保健福祉政策・ケアシステム論 2単位・修士1年,

#### 7. 社会貢献活動

- ・ NPO 法人「ヘルスアイランドライツサポートうりずん」第三者評価委員会委員長
- ・ 北九州市生きがい・働き方検討会委員
- ・ 田川市地域包括ケアシステム推進協議会委員
- ・ 田川市高齢者保健福祉計画有識者会議委員
- ・ NPO 法人「福祉・医療機関教育評価機構」理事・第三者評価委員
- ・ NPO 法人「生涯現役支援センター」高齢者健康相談員
- ・ 令和4年度「人に優しい町・田川をつくる会」理事
- ・ 北九州在宅医療・介護塾世話人として年間を通して多職種連携研修会やフォーラム等開催による実践活動.
- ・ 筑豊市民大学「ヘルシーエイジングゼミ」参画し年間を通し地域住民との協同的実践活動.

#### 8. 学外講義・講演

- ・ 福岡県看護協会筑豊支部看護研究発表会、講評。2022年10月。
- ・ 北九州市介護従事者研修会オンライン開催講師「高齢者の誤嚥予防～あきらめない食事へのアプローチ～」ウェル戸畑，2022年10月、11月。
- ・ 田川市立病院看護研究発表会、研究推進講話，講評。2022年10月。

#### 9. 附属研究所の活動等

- ・ 附属研究所奨励研究令和3年度（附属研究所重点領域研究），地域包括ケアシステム構築に向けた保健医療福祉データのGIS分析による地域診断モデルの開発。
- ・ 筑豊市民大学ヘルシーエイジングゼミアドバイザー。